

NCC HEADLINE

【日本キリスト教協議会 最新情報】

ACTジャパンフォーラムの国内災害対応

災害が続いています。7月には熊本で大きな地震、8月には千葉豪雨、そして石川、富山、福井でも豪雨災害が起きています。大規模な災害が発生したとき、被災地では一刻も早い支援が求められます。しかし、外部から新たな支援体制を立ち上げることが、常に最善とは限りません。地域の事情を知り、被災した人々と日常的な関係を築いてきた団体を支えることも、重要な災害対応です。ACTジャパンフォーラムは、この「つながり」を生かした支援を重視しています。

私たちには、国内災害対応専門の専従職員はいないため、災害時には現地で救援活動を行う教会や関係団体と連携し、それぞれの働きを支える形をとります。

発災後は、まず以前からつながりのある団体や教会に連絡し、被害状況を確認するとともに、救援活動を始めているか、今後どのような活動を予定しているか、課題や必要な支援は何かを丁寧に聞き取ります。関係団体がすでに活動している場合には、それを支えることを最優先とします。

こうした連携は、災害が起きてから急に作られるものではありません。そこで、平時から防災のためのネットワークづくりを続けています。大規模災害の発生が予想される地域を実際に訪問し、NCCの加盟教団や関係団体を訪ね、地域が抱える災害リスクを共有するとともに、将来災害が起きた際にどのような協力が可能かを聞き取り、顔の見える関係を築いています。

支援に際して特に目を向けるのは、外国人、高齢者、性的少数者、障がい者など、災害時に困難を抱え

やすく、既存の制度や支援から取り残されるおそれのある人々です。避難所の外にいる被災者や、声を上げることが難しい人のニーズは、外部からは見えにくい。地域に根差した団体との連携は、そうした一人ひとりの困りごとを把握し、必要な支援につなぐためにも欠かせないのです。

今回の熊本地震では、私たちのメンバーであるCWS Japanが現地に入り、過去にも協働した熊本YWCAと連携を始めました。八代市や熊本市で聞き取りを行い、障がいのある人への物資支援や外国人被災者の状況把握を進めています。今後は、地域と連携して情報収集と調整を行い、支援の届きにくい人のニーズを個別に把握して必要な支援につなぐ取り組みを検討しています。平時に築いたつながりを、災害時の具体的な助けへと変えることが、私たちの国内災害対応の特徴なのです。(藤守義光 ふじもり・よしみつ＝ACTジャパンフォーラム事務局)



ACT ジャパンフォーラム

ホームページ <https://ncc-j.org/actjapanforum/>

Email actjapanforum@ncc-j.org

三菱 UFJ 銀行 高田馬場支店 普通 2255233

海外の若者のまなざしから見える日本の教会 ISJPで重なる出会いと学び

前回（8月11日付本欄）は、NCC宗教研究所が25年間、ドイツのエキュメニカルな宣教団体EMSと共同して続けてきたISJP（Interreligious Study in Japan Program）の概要を紹介しました。

ISJPの参加者の多くは神学校生や大学院生です。サバティカル中の牧師・神父が参加したこともあります。主な対象は若者、青年層です。

これまで、多くの若い参加者を迎えてきました。思い出深いエピソードもたくさんあります。ある参加者は期間中（10月～1月）ずっと半袖で過ごしていて、寒いのかと思いました。ドイツの若者にとって日本の冬はそれほど寒くないのでしょうか。ある別の参加者は、日本で服を買いたいと言っていました。日本の服はどれ

も彼には小さすぎるというので大きなサイズの専門店を紹介しました。彼は柔道をやっていると話していたと思います。また、カレーライスが大好きで、ほとんど毎日食べに行っていた参加者もありました。

私がもう少し若かった頃には、いくつかのフィールドトリップに同行したこともあります。天理教本部フィールドトリップのためJRで移動中、JR奈良線の車窓から任天堂本社が見えて、参加者たちが「あれが任天堂!」ととても興奮していたこともあり。伏見稲荷大社フィールドトリップでは、一人の参加者が「夕方に友人と会いたいので、予定より早く山を下りたい」と先に下山し、別の参加者たちは「両側に竹林があって雰囲気が良いので、計画していたルートとは違うこちらの道から下りたい」とそちらから下山し、結局私とコーディネータ役2人だけが楼門前（集合場所だったのです）に帰ってきた、ということもありました。

日本キリスト教史を専門とする研究者として、私自身もISJPから多くを学んできました。日本の教会には戦争協力の歴史があります。戦後の反省を含め、日本の教会の状況が海外の若者（特にドイツの若者）にどのように受け止められるのかを知ることは、私にとって非常に興味深いことです。ヨーロッパの参加者から「日本の教会は力強い、みなとても熱心に関わっていてすごいことだ」と言われ、複雑な気持ちになりつつ励まされたこともあります。今後も参加者の視点から新たな発見があることを楽しみにしています。

今年も9月末にドイツとスウェーデンから4人の若者がやってきます。どのような出会いがあるか楽しみです。次回も続けてみなさまに学びの様子をご報告したいと思います。

(岩野祐介 いわの・ゆうすけ＝NCC宗教研究所所長)



NCC 宗教研究所

ホームページ <https://nccisjpnew.wixsite.com/nccisjp>

Facebook [NCC Center for the Study of Japanese Religions \(Kyoto\)](#)

T/F 075-366-2421

Email studycen@mbox.kyoto-inet.or.jp

郵便振替 01060-6-2555